

「備北商工会地区」景気動向分析レポート 令和5年1月～3月期

《調査目的》

「伴走型小規模事業者支援推進事業」の一環として管内の景気動向等についてより詳細な実態を把握するため、全国商工会連合会が行う「小規模事業景気動向調査」を継続して実施。その結果と経営指導員等の行う巡回及び窓口相談によるヒアリングを分析し、まとめたものを管内事業者に対して提供するものです。

《調査概要》

対象期間：令和5年1月～3月

対象事業所：備北商工会地区内の事業所

回答企業：15企業

製造業2 建設業2 小売業5 サービス業6

【産業全体】

今期の管内産業全体景況は前期(令和4年10～12月)の景況と比べると悪化している。季節による売上の減少もあるが、光熱費や物価の値上げにより、収益を圧迫し採算が取れない状況が続く。しかしながらコロナ禍が明け客足が徐々に戻りつつあり、来期以降の売上の回復が見込まれる。

【製造業】

客足が戻り売上が上昇したものの、原材料の仕入価格や光熱費等が上昇し、値上げを予定している事業所が増え、駆け込み需要が増えている。値上がり分を100%価格転嫁できず、利益が伸びにくい状況である。

【建設業】

土木事業においては水害復旧工事がまだ出続けており、売上は安定しているように思われる。人件費の引上げ要求が社会的にも強まっており、従業員のモチベーション維持のためにも賃上げの方向で進んでいる事業所もあるが、燃料費等のコスト上昇もあり賃上げを支える程の利益が確保されているとはいいがたい。賃上げ優遇税制等の活用を模索しつつ対応している状況である。

【小売業】

マイナポイントと「な・み・か」のポイントキャンペーンで生活必需品以外でも客単価が高くなり売上が上昇した。食品小売業では通常1月、2月は閑散期のため在庫を減らす傾向にあり、欠品によるチャンスロスも目立った。また仕入価格、原材料、光熱費の値上げが続いているが、近隣の大型店へ顧客が流れることを懸念して価格の転嫁ができず、利益が上がりにくくなっている。

【サービス業】

コロナによる制限の解除により客足が戻りつつあり、前期と比べると売上がプラスとなっている。飲食業では店内の状況は変わらないが法事等が戻ってきており、仕出しが増えてきている、とのコメントがあった。観光関連では人出が戻ってきた感があるが依然として大型バスでのツアーは少ないように感じられる。光熱費等の価格の上昇や利用者のニーズが変化しつつある影響で、利益の確保に苦慮される状況は続くと思われるが、コロナ関連の助成はもうないと思われ、商品・サービスの値上げについて本格的に検討する段階に入ったと思われる。

産業全体の業況

業況DI値(前期比) ※商工会地域のみ
(前期) (今期)

	R4.10~12	R5.1~3	前期との比較
備北	13.4	-40.0	↘
広島県	-26.9	-15.7	↗

DIとは Diffusion Index (景気動向指数)の略。
各調査項目について、増加(好転)企業割合から、減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示し、「変化の動向」を把握する。
DIがプラス(+)なら………強気(楽観)、上昇機運
DIがマイナス(-)なら………弱気(悲観)、低下機運

広島県の主要景況項目の推移(前年同期比)

【製造業】	製造業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R4.10~12	R5.1~3	前期との比較
	売上額	4.4	-2.2	↘
	原材料仕入単価	79.5	83.7	↗
	採算	-20.0	-11.1	↗
	資金繰り		-13.3	→

【小売業】	小売業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R4.10~12	R5.1~3	前期との比較
	売上額	-25.7	-27.5	↘
	商品仕入単価	64.3	65.7	→
	採算	-42.1	-32.8	↗
	資金繰り	-24.7	-26.1	↘

【建設業】	建設業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R4.10~12	R5.1~3	前期との比較
	売上額(完成工事額)	4.5	-2.0	↘
	材料仕入単価	72.7	70.2	↘
	採算	-26.7	-27.1	↘
	資金繰り	0.0	-6.3	↘

【サービス業】	サービス業 DI	(前期)	(今期)	
	主要項目	R4.10~12	R5.1~3	前期との比較
	売上額	-25.7	-6.0	↗
	材料等仕入単価	67.7	68.2	→
	採算	-44.0	-40.3	↗
	資金繰り	-27.0	-24.6	↗